
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 10 時 45 分）

◇ 長 嶋 精 一 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位 2 番、長嶋精一君。

（3 番 長嶋精一 君 登壇）

○3 番（長嶋精一君） 今の松崎町を船の航海に例えるとするならば、目的地を持たず、海図も GPS もない船に乗って、ただ航海をしているという状況ではないでしょうか。実際問題、海図もない、GPS もない、目的地もわからないといった船に乗って航海したならば、その船の運命はどうなるでしょう。乗組員はどうなるでしょう。船は遠からず座礁し、乗組員はほんの一握りの運のいい人間だけが生き残り、あとはすべて溺れ死んでしまうでしょう。

この町をそのような難破船にしてはいけないのです。松崎町のように人口の少ない町、産業基盤の弱い町、少子高齢化が一段と進んだ町、リーディング産業がない町というのは、役場が中心となって、町を引っ張っていく必要があるわけであります。役場の中心は町長であります。町長の歴史観、先見性に裏打ちされた強いリーダーシップと職員が公僕として町民のために一生懸命働くという体制をまず作る必要があると思います。

それから、町会議員については単に行政を監視する、チェックするということだけではなくて、この町にある問題点について自ら行動するという姿勢がいま求められていると思います。

私は、そのような観点から、この町にある問題点について少しでも解決ができますよう行動してまいりたいと思っております。

続きまして、私の方からは 3 つの質問、提案をしたいと思います。

まず、1 つ目でございます。平成10年から平成25年の15年間、税収が約 2 億円減っています。税収規模が300億円、400億円の大きな自治体ならいざ知らず、税収が10億円未満のわが町が 2 億円減少しているということは、これは大変なことなんです。

それと経常収支比率、これも毎年悪化をしてくれています。経常収支比率というのは、自治体の主要な財政指標の一つでございます。わかりやすくいいますと、収入に対して毎年毎

年使う、支出するお金、固定費ですね。収入に対して固定費が何割を占めるかということの指標でございます。当然これは低い方が余裕がある。財政的に余裕がある町でございます。

簡単な例を言いますと、収入が10億円ある。固定費はやはり10億円かかってしまうという町は経常収支比率は100パーセントということになりまして、全く余裕のない町、突発事故が起きたならば、国や県に頼らざるを得ない町になるわけであります。

それでは、わが松崎町はどうかといいますと、実質でとらえますと経常収支比率は100パーセントに近いのではないかと考えております。

税収の減少、それから経常収支比率の悪化、このような財政構造の中で、この松崎町は将来どうあるべきか。それについて、町長に具体的に尋ねたいと思います。

なお、回答として、第5次総合計画で示したとおりだとか、日本一の美しい町を目指すとか、そういう表現は今回はやめていただきたいと思います。

次、2つ目の質問、それと提案でございます。町道星山線崩落事故が平成24年4月23日に、大雨のときにありました。それから丸3年2カ月経っているわけですね。放置状態が続いているわけであります。目の前で起きている災害に対して、3年以上も解決ができないというこの町の災害対策というのは、いったいどういうものかと私は疑問に思うわけであります。

住民の命と財産を守るというこの町の方針というのは、単なるスローガンではないかと私は思わざるを得ないわけであります。

それと、私のこの提案でございますが、このような事故を未然に防ぐためには、町道の下に民家があるというような、そのような町道を私は全部確認をしたいと思います。したがって提案ですが、町の担当者に同行してもらって、どこにどういう場所があるのかというのを確認し、町はどういうふうに管理をするのか、チェックをするのかというのを私はこの目で確認したいと思います。

町道というのは、当然町の管理責任があるわけであります。役場の災害対策というのは、これからは結果管理ではなくて、未然に防止するという方向に転換していかなければ、私はいけないと思っています。ぜひひとつ人の手配をよろしくお願いします。

次、3つ目でございます。これは提案であります。役場の職員の態度、応対あるいは組織全体について住民がどう感じているのかということを率直に発言できるご意見箱、このご意見箱の設置をお願いしたいと思います。

徳川8代将軍吉宗が目安箱をつくったということは記憶にあると思います。行政改革の第一歩は先ず隗より始めよという言葉どおり、役場内部から襟を正す必要が私はあると思います。

そして、この目安箱の実施にあたり注意点を申し上げます。1つ目、行政だけでなく、議会議員に対しても意見を求めるということ。2つ目は、出てきた意見のチェック体制、これについて申し上げます。行政に対しては議員がチェックをするということ、議会議員に対しては第三者、区長さん方あるいは民間企業の方々にチェックをしていただきたいと思っています。3つ目は、最低月1回これを公開する。手段としては広報等でもいいんですが、とにかく公開をするということが大切だと思います。

財政が、先ほど厳しい松崎町と言いましたけれども、ご意見箱の設置というのは、特にお金がそれほどかからないのではないかと思います。ぜひ実施をお願いしたいと思います。

私の質問、提案は以上でございます。よろしくお願いします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長（齋藤文彦君） 長嶋精一議員の一般質問にお答えします。

松崎町の将来について。「平成10年から平成25年までの15年間、人口減少等を要因として、税収は約2億円減っている。経常収支比率も毎年悪化している。そして今後についても収入はどんどん減っていく傾向。反面、支出は減らすことが困難な状況。このような厳しい財政状態のもと、町長は松崎町の将来をどのように考えているかお聞きしたい」についてであります。

観光動向の変化や経済変動による流入客数の減少は、事業所数の減少を招き、また少子化も加わり、人口減少に拍車をかけました。これに伴い、人口区分では生産人口が減ることとなり、税収も比例するように減少し、地方交付税等の依存財源にたよる体質は、さらにその色を濃くしていると言わざるを得ません。

一方、歳出では、職員を2割削減するなどの合理化も行っていますが、地震防災対策、福祉対策、道路・橋梁等の公共施設の長寿命化など、削減するのは難しい状況です。

このような状況下、私はこの流れに歯止めをかけ、安心で、自然と調和し快適な暮らしができる町となるよう数々の取り組みを実施してきました。また、これからも様々なチャレンジを続けていきたいと考えています。例えば、町を活性化させるためには若い力が必要であります。若者が居つくには就業する場がなくてはなりません。松崎町に就業の場と言いますが、生産業的なものは流通面で不利なため実現は厳しいと思います。松崎町に就業の場を

作るには、主要産業である観光を活性化させ、その魅力をアップすることにより賑わいを創出することが重要で、「人が集まる場所」にビジネスチャンスが生まれ、就業の場も生まれてくると思っています。

そのために、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、地域の魅力を磨くこととしました。また、今後は地方創生総合戦略も策定していきますが、農産物の6次産業化、グリーンツーリズムなどの都市との交流、移住促進、近隣市町との連携事業などに力を入れ、若者が住み続けることができる町を作っていきたいと考えています。

これを実現することが現状打破、ひいては住民の生活を豊かにすることに繋がりますので、全力で取り組む所存でございます。

2. 町道星山線崩落事故について。①「町道星山線崩落（H24.4.23）から丸3年2カ月放置状態が続いている。（現在調停中）目の前で起きている災害に対し3年以上も解決できないこの町の災害対策に大きな疑問を持っている。住民の「命と財産を守る」という言葉は、単なるスローガンか」についてでございます。

町道星山線崩落事故の事案に関しては、相手方と合意できなければ町としても対応が出来ない案件であります。先ほどの行政報告で調停の経過を報告しましたように、相手方との合意に向けての調停を継続していますので、町が本件事案に対して対策を怠っているということはありません。

そして通常時においては、町道、河川等の改良や維持補修の実施、更には橋梁の耐震化や治山、急傾斜地崩壊対策事業の推進、加えて避難路や避難タワーの整備推進など災害に強いまちづくりを進めています。

また、台風等の突発的な異常気象による災害には迅速な復旧に努めていますので、私は災害対策をおろそかにしているつもりはありません。

②「本事故のようなケースの再発を想定し、町道の真下に民家があるという、町道を実査したい。（職員に同行し、町の管理状況を確認したい。）」についてであります。

ご質問の町道は、幅員2メートル以下の町道と思いますが、その延長は約94キロメートルあり、全てを調査することはなかなか厳しいと思います。

通常、使用頻度の高い道路（1、2級町道）については、職員が現場等への外出時に併せて、車道の確認パトロールを行っており、異常があれば修繕や工事等で対応しています。

また、その他の町道については、地域住民や通行者からの情報提供に基づき、現場確認後、適宜対応しています。

なお、議員同行での町道調査については、議会と協議のうえ検討してまいります。

3. 「ご意見箱」設置について。「役場職員の態度、応対、あるいは組織全体について、住民が率直に発言できる「ご意見箱」の設置を要望する。行政改革の第一歩は、先ず隗より始めよの言葉どおり、役場内部から襟を正す必要がある」についてであります。

私は常々、住民の役に立つ人がいるところが役場である。職員一人一人がその気持ちを忘れないよう職務に当たるようにと言っています。また、職員も皆、真剣に業務を遂行してくれています。

加えて現在、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の5 S運動をすすめていますが、この運動を通して、自立的・自発的な行動を促し、働きやすい職場環境をつくることにも取り組んでいます。

こうした中、現在でも住民の皆様からの様々な意見や要望が、来訪時、電話、メール等で寄せられるほか、議員の皆様や区長様を通じて多数届けられています。

これらにつきましては、ご指摘は真摯に受け止め改善を指示し、要望については、実施の可否、緊急性、効果などを検討し、優先順位をつけて対応しています。また、各地区からの要望については、結果を区長様を通じて各地区にもお知らせしているところであります。

このように、現状において住民の皆様の声が届くのに支障があるとは考えておりませんが、より広く声を聞くためには良い方法だと思います。

以上でございます。

○3番（長嶋精一君） 一問一答をお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○3番（長嶋精一君） まず、第1の質問でございますが、そのような取り組みをしてきて、税収は2億円減ってきているという事実があるわけです。これをやった、あれをやった、こういうことをやっている、あれもやっていると言葉では素晴らしい言葉なんですけど、現実論として税収が2億円減っている。税収というのは売上じゃないんですよ。、利益ですよ。それが減ってきているわけですね。だから、そういう・・・、私は最初に言いましたけれども、日本一美しいとか、そういうことを目指すんじゃなくて、もっと骨太の・・・、わが町はこういうことを将来的にやっていかなければ、大変な町になってしまうということを率直に言っていたきたいんですよ。

例えば、言っていたきたいんです。収入というのは税収とそれから地方交付税の一部ですね。地方交付税というのは国からもらうお金です。皆さんご承知のとおり国は大変な借金

を抱えているわけですね。GDPの2倍、1000兆円以上の借金があるわけです。先進国の中で、自分の国のGDPの2倍借金をもっているという国は、日本以外にないんですね。あのギリシャですら2倍はないわけです。そういうことを考えますと、税収は減ってくる、じゃあ、地方交付税もすぐ大幅に減るということはないでしょうけれども、トレンドとしては減っていかざるを得ないと思うんです。

アベノミクスで景気はよくなってきてはおりますけれども、借金は減っていないんですね。

それと、いま言ったのは収入。じゃあ、固定費・・・、固定費というのは、これは人件費、扶助費、それから公債費であります。人件費を減らすというのは、非常に難しいことです。扶助費というのは、老人福祉だとか、障害者福祉等で、これは高齢化社会になればなるほど増えていくと思った方がいいわけですね。それと公債費。これについては借金の返済であります。借金の返済をとめたり、減らしたりすることはできないんですね。

要するに、収入がこれから減っていくだろうと・・・、固定費は増えていくだろうというときに、どうやっていくのか、それを私は知りたいわけでありまして。

民間企業では、いま苦しいとき、苦しいときに、従業員に対して、いま厳しいときだけでも、こういう対策をしている。これをやっていると、1～2年後には光が見えるようになるというふうな説明をしないと、従業員は不安で耐えられないんです。

町長、私は、ここで町長が言わないと職員が耐えられないでしょうと言っているわけじゃないんです。誠に残念で失礼な言葉だけれども、耐えられないと思っている職員はほんのほんのほんの一握りだと思います。大変だと思って本当にどうしたらいいのかと悩んでいるのは町民なんです。そういう・・・、だから、現実論とそれからいろんな今までの体験あるいは勉強してきたことをやっぱりミックスして、こうやるんだというような意見を言っていたきたいと私は思います。よろしくお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 松崎町はいま人口減少が進んでいるわけですが、人口減少の一番の根本になるものは、生産年齢人口の減少で、納税者の減少です。

先ほど長嶋議員も言いましたけれども、2億円減っているというような話があったわけですが、納税者の減少、そして歳入の減少によっておのずと歳出を制約せざるを得ないという負のスパイラルに入っています。

また、松崎町は高齢人口の増加によって社会的扶養の負担を増大させ、義務的経費とか消費的経費が全予算の85パーセントを占めているということで、非常にもう15パーセントくら

いしか自由に使えるお金がないということで、町民のニーズにどのように応えていくかということで非常に厳しいところがあります。

それで、私は、私が町長になりましたときに、平成の花とロマンのふる里づくりということで町長に立候補したわけで、松崎らしい田舎づくり、人づくり、少子高齢化を土台としたコミュニティづくり、自分たちの住む町をよくするために自ら考え、実行していくことを促すということを土台に掲げて、私はこれを真ん中にそなえてまちづくりをやっていました。

まちづくりの施策としまして、グリーンツーリズム推進事業、これは体験型修学旅行の誘致、岩地、棚田保全事業、これがオーナー制度、そして地域おこし協力隊の導入、スケッチの町宣言、2番目が歴史的景観整備事業、ナマコ壁技術伝承事業、歴史的建造物を保存、活用、またなまこ壁保存運動、3番目が鰻絵のまちづくり推進事業、全国漆喰鰻絵コンクール、4番目が若者のまちづくり推進事業、伊豆半島太鼓フェスティバル、海のピカ市、5番目が花の咲くまち推進事業、田んぼを使った花畑、これが花いっぱい推進運動、年3回の清掃につながっていくわけですが、このようなことをやってまちづくりを進めて松崎を活性化するためにやってきました。

松崎町の一番素晴らしいところは、私は松崎町の職員は、本当に松崎町にいろいろな財産があると思いますけれど、松崎町の一番の財産は松崎町の職員だと思っています。一生懸命やってくれて、松崎の活性化のために頑張ってくれています。

そして、もう一つは伊豆文邸の公共施設の管理運営をしてくれたり、やろうじゃ協議会でもいろいろ草を刈ってくれたり、本当に行政に協力してくれる皆さん方がいて、多様な主体が参加することで協働の仕組みを作ってきたわけですが、松崎町の一番素晴らしいところは、私はここだなと思っています。これが絶えたら松崎町はなくなってしまう。

それで、基幹産業である松崎町の観光というのは、やっぱり農林漁業を土台とした体験型、滞在型の観光地を目指さなければ、松崎町は生き残る道はないと思っていまして、全町まるごとふる里自然体験学校を松崎町として、それで体験を通して対価を得ると、それで教師は町民であると。

これによって、先ほど生産年齢の人口の減少を言いましたが、これを増やして、40歳、50歳をはなたれ小僧で、60歳、70歳は本当に働き盛り、90歳になって迎えが来たら、100歳になるまで追い返せと渋沢栄一が言っていますけれども、このくらいの気概でやっていかなければ、松崎町は生き延びないと思っています。

先ほどコンパスがないとか、なんとか言いましたが、ちゃんとしたコンパスのもと

に松崎町は進んでいるわけでございます。

○3番（長嶋精一君） 確かに職員の皆さん方は一生懸命やっているように思われます。ただ、もう一面を見ますと、この方々は一生懸命やっている、土曜日も日曜日も一生懸命やっていることがある。ただ、この人たちは時間に追われているだけじゃないのかと、それを・・・、時間に追われている・・・、大変失礼だけれども、時間に追われているだけじゃないのか。時間に追われていても収入はきちんとあるからいいわけです、保障されているから。ただ、町民はそうはいかないんですね。そういうことを考えますと、職員は一生懸命やっているかもしれない、しかし職員だけじゃなくて、町民が幸せになるようにしたら、どうしたらいいのかということを考えるのはトップなんですね。自分のところは一生懸命やっている。それだけじゃあ私は返答にならないんじゃないかと思います。

バブル崩壊後、ご存じのとおり民間企業は、民間企業は、あのライバル同士が合併して一緒になったのかという・・・、これは銀行にしろ、百貨店にしろ、その他の業種にしろたくさんあるわけですね。合併をしなかったら生き残れなかったんですよ、生き残れなかった。

私は、松崎町はもうそのようなところにきているんじゃないかと思います。町長、単独でこれからずっとやっていけるつもりですか。これは、町長にお尋ねします。

○町長（齋藤文彦君） 1市5町の合併が失敗して、松崎町は単独でいくということですので、単独でいくことになると思います。

ちょっとお話ししますが、松崎町のいま職員はですね。職員のことが出ましたから言いますけれども、いま正規職員が松崎町は89人、そして県からの出向、派遣等4人を含めると93人、これだけの人数で本当に松崎のために一生懸命頑張ってくれてると思いますよ。

それで平成18年、19年で集中改革プランで大勢の職員の皆さんに辞めてもらって、今この職員の数でやっているわけですがけれども、こんなことを言うと町民の方に怒られるかもしれませんが、もし役場の職員がいなくなって、初めて「ああ、松崎の職員はこんなにたくさんのかんことをやってくれたんだ」というようなことを、私は痛切に感じるようになると思います。

私も外から来た人間ですから、いろいろ中に入って若干違うなというようなところもあると思いますけれども、本当は89人が一騎当千の強者で、それぞれ先陣を切っていくような人だったらいいわけですがけれども、やっぱり初めて今年入った人、2年目、3年目の人もいますから、その人を教えながらやっていくような形になるわけで、松崎町の職員というのは、本当に素晴らしいものだとは私は思っているところでございます。

○3番（長嶋精一君） 素晴らしいということは・・・、町長が言いたいことはわかりました。
それを認めたわけではございませんけれども、わかりました。

それで、税収、税収に対して、じゃあ、人件費がどうなっているかという、最近の松崎町の税収対人件費というのは税収の中に収まるようになっております。しかし、私は、ほかの物件費の中に実質人件費が含まれているんじゃないか。だから、税収対人件費は総人件費で占めるとそれほど減っていないのではないのかなと私は思います。この話をしていくと、きりがありませんので、最後に、第1問に関連して、中曽根元総理はですね。総理は歴史法廷の被告席に坐して、裁きを受けなければいけないと言っております。非常に重い言葉だと思います。町長も歴史法廷の座席に座るときが来るわけですね。しかとこの町政を推進して、町民のためにいいまちづくりをしていただきたいと思います。第1問は以上です。

○町長（齋藤文彦君） 私はいつも心の中にとめていた言葉があるわけですが、これが議会だよりの海鳴りの中で議長が書いているんですけれども、税金を納める側の血と汗を果たして執行者側に届いているんだらうかと。町政の中心にいる町長は、納税者である住民の皆さんの思いを肝に銘じ、このような感じで町政をやっているということをぜひご理解いただきたいと思います。

○3番（長嶋精一君） 2つ目の町道星山線でございます。たくさん災害対策をやっているというふうに町長の方ではおっしゃられましたけれども、私は目の前のことが・・・、目の前のことができなくて、あさって起きるかもしれない、そのあと起きるかもしれないということ、それも大事ですけども、まず目の前のことを解決してもらいたいということなんです。

それで、いま調停中でございますので、あまり細かいことは言いませんけれども、当事者である土屋さんご一家は雨のたびにこの3年以上、裏の町道が崩れてくるんじゃないかという、この恐怖感でずっとおびえ続けてきたんですよ。

皆さん、私は、岩地の出身だからこういうふうに言っているわけじゃないんですよ。皆さん、現場を見ていただけましたでしょうか。真実は現場に宿という言葉がございます。現場に行かなければ何もわかりません。現場に行くと、この根本は何なんだというのがわかります。ぜひ議会で・・・、これは議会で承認を得ないと・・・、役場の職員に同行してもらおうということは・・・議員で・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 関係ない。

○3番（長嶋精一君） 関係ないです。ぜひ同行を・・・。議長がそうおっしゃっていますか

ら、ぜひ・・・、私は何メートルだろうが行きます。役場職員の方々がどうチェックをするのか、そこを見たいんです。そして、私も見たいんです。あくまでも結果管理じゃなくて、未然防止にぜひお願いしたいと思います。

さっき土屋さんご一家について、命と財産とそれから家庭の団らんを守っていただきたいと思います。2つ目の質問は以上です。

○町長（齋藤文彦君） その土屋さんとの問題は、ここではっきり言った方がいいと思うわけですが、相手方との合意ができなければ、町としても対応ができない案件です。町としては、民地に対して本当は介入しないわけですが、ただ土屋さんの法面が崩れた、それだったら土屋さんだけでやってもらうわけですが、ただその上に町道が走っている。土屋さんにすれば、法面が崩れたのは町道が崩れたからだ。町としては法面が崩れたから町道が崩れたわけだということで、いろいろもめてたわけですが、町としても専門家に意見を聞かなければいかんわけですから、専門家に頼んだところ、町としては非はないということでございます。

それで、工事をする場合、受益者負担のパーセンテージでもめているわけですが、それが、いま調停が始まっているわけですが、その中で、調停でうまく進んでくれて、議会の承認を得て、うまく解決できればいいなと思っているところでございます。

○3番（長嶋精一君） 町の方に非がないとおっしゃいましたけれども、先ほど言いました。私は現場主義ですから、もう1年前からこの件に深く関わっております。それで、町に非がないといいますけれども、現場に行くと歴史をたどると、その町道の上に15メートルくらいの農道があるわけですね。農道が走っています。根本は農道のその造成の不具合があって、それから平成23年の大雨の崩落につながったと私は考えているんですね。私だけじゃないです。いろんな専門家にもお話をしましたけれども、そのような考えが多いです。

時間の関係で、私はこれで本件についてはやめますけれども、調停にも・・・、6月19日ですか、同行しますが、ぜひひとつその・・・、もう3年2カ月も経っております。お互いが・・・、お互いが譲歩し合うということで、決着をしていただきたいと私は思います。

土屋さん家族も相当心身ともに疲れています。よろしくひとつお願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 町のこともちょっと考えていただきたいわけですが、やっぱり受益者負担で負担金を払ってもらわなければいかんわけですが、負担金を払うにしても私の金ではありません。町民のお金ですので、そのことは非常に私は肝に銘じているわけでございます。

○議長（稲葉昭宏君） 長嶋君、いいですか。次に進んでください。

○3番（長嶋精一君） ご意見箱についてでございますが、私は、こういうことを意見を求めて、こういうことが・・・あのAさんという窓口の担当者は非常に感じがよかった。ということであるならば、それを全体で披露するというようなことですね。奨励していく、あのBさんという税金をやっている人は対応が悪かったと、福祉の方も対応が悪かった。そういうのをやはりみんなが共有して、共有をして、いいことはいい、悪いことは改めていくという、これが大切だと思います。

行政は最大のサービス業と言われております。行政は何でも・・・、しかし、言うことをきけばいいと言っているのではなくて、しっかりとした礼儀作法、そういったことを実行していく必要があるのではないかなと思います。ぜひひとつお願いしたい。実行をしてくれるんですね、ご意見箱。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど檀上で答えましたけれども、より広く聞くためにはよい方法だと思っています。これがどのような・・・、実施方法についてというのがありますが、検討してみたいなと思っています。

私は、常々町民の皆さんがいろいろ松崎町に文句を言ってくる人が多いわけですが、裏返せばアドバイスだと思っていますので、こういう意見箱もいいのではないかなと私は思っています。

○3番（長嶋精一君） 町長のおっしゃるとおりで、意見を言ってくれる人は、これは自分のところを改めるチャンスなんですよ。やっぱり客観的に自分というものを評価していかないとだめなんですよ。だから、ぜひそういうことで、実行をしていただきたいと思います。

それと、クレーマーといいますか、そういう方もあるかもしれません。しかし、役場の職員さん、公務員さんに言いたいことはどんどん、どんどん相手が言ってくるからといって、避けたり、逃げたりしてはだめだと思うんです。逃げると追いかけてきますよ。いいですか。一生懸命それについて、わが方法はこういうふうに、意図でやったんですということをしっかり言わないとだめだと思います。それで、あの人はひどいことを言う、あの人は怖いだとか、そういう担当者の報告があったら、上司の方が「ああ、そうか、それはひどいな」というだけではだめなんですよ。やっぱり上司も直接その人のところに出ていって、話をするというでないと問題は解決できないと思います。

私は、いろんな意味で選挙期間中大勢の人と会いまして、やはりご意見箱というものを設

置したらどうかという意見もありました。私は、常々そういうふうに思っておりました。私は、方針として皆さんが言う意見を全部取り入れろということではないんですね。自分でまず考える。自分で考える。そして、意見のいいのをそれをミックスするというふうな考えでやっておりますけれども、ぜひ・・・、できるだけ早くご意見箱を設置していただきたいと思っています。よろしくお願いします。

私の方の質問は以上でございます。

○議長（稲葉昭宏君） 答弁はよろしいですか。町長、何か答弁は。

（町長「ありません」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で長嶋精一君の一般質問を終わります。

午後１時まで休憩いたします。

（午前１１時２５分）
